

指標

北海道地域医療振興財団の現況

副会長

三宅 直樹

1. はじめに

医師数不足、地域間・診療科間の医師偏在解消に向けた仕組みの検討・具体的対策については、以前より政権交代の有無にかかわらず、国にとって一貫して取り組み改善していかなければならない重要な課題であることは論を待たない。この課題においては、全国的見地と、地域の特性を考慮したきめ細かい地域の見地に立った対応とが必要であろう。

前者に立った対応は、厚生労働省、文部科学省が主導して検討を進めているが、官僚制度の欠点である縦割り行政の弊害や、政権与党の方針により生ずる不適切な対応に対しては、日本医師会が健全な国民医療を維持発展させるため医療のプロフェッショナルとして正論を具申してきたことは周知の通りである。

後者に立った対応としては、後述するごとく北海道、北海道医師会、医育大学をはじめ各種医療関連団体が協力連携して諸対策を講じてきたが、その中の一つであり、小職が理事長を務める北海道地域医療振興財団の現況について記述する。

2. 医師不足および偏在解消に向けての日本医師会の見解

以下は、厚生労働省「必要医師数実態調査」等を踏まえて、2010年10月6日に行われた日本医師会の定例記者会見の内容を記述した報告である。

2010年9月29日、厚生労働省から「病院等における必要医師数実態調査の概況」が発表された。これによると、マクロの医師不足は2万4,000人で、地域・診療科の偏在も指摘された。必要求人医師数の倍率は1.11倍、必要医師数の倍率は1.14倍であった。必要医師数については、勤務医の過重労働緩和や必要な提供医療を考慮し、今後継続的に見直していく必要性を考えている。必要医師数の診療科別偏在では、病理診断科、婦人科、救急科、リハビリテーション科で必要性が高かった。

医師不足解消では、医師数を増やせば良いのではないかという意見は以前より根強く存在している。しかし、人口動態との絡みや養成期間が長期間（最低で10年、診療科によっては技術習得に15年以上かかるのは常識であろう）かかることによるタイムラグ等々があり、単純に増数だけの問題ではないだろう。医師養成に必要な医学部新設を求める意見もあるが、施設費用調達やスタッフ確保など、越えなければならない種々のハードルがあり、既存医学部の定員増で対応可能とされる。現実に入学生員数は、2007年度から2010年度までに1,221人増加している。日本医師会としては、今後必要な医師数は徐々に充足されていくと見通している。今後は、医師数より偏在が問題となるため「医師は地域で育てる」という発想を重要視している。

3. 医師養成についての日本医師会の提案－医学部教育と臨床研修制度の見直し－（第2版、2011年4月20日）

これは副題にもあるように、医学部教育と臨床研修制度の見直しについての提案である。医学部教育に関しては教育カリキュラムを掲示する（図1）。

4年生終了時で医学的知識を問う試験CBTと客観的臨床能力試験OSCEを課し、合格者に参加型臨床実習の参加資格を与え、医師国家資格の取得を目指し医療チームの一員として実習を行う。医師国家試験は、医学知識のみの評価は4年生終了時のCBTで行い、上級OSCEに相当する内容に特化するものとしている。

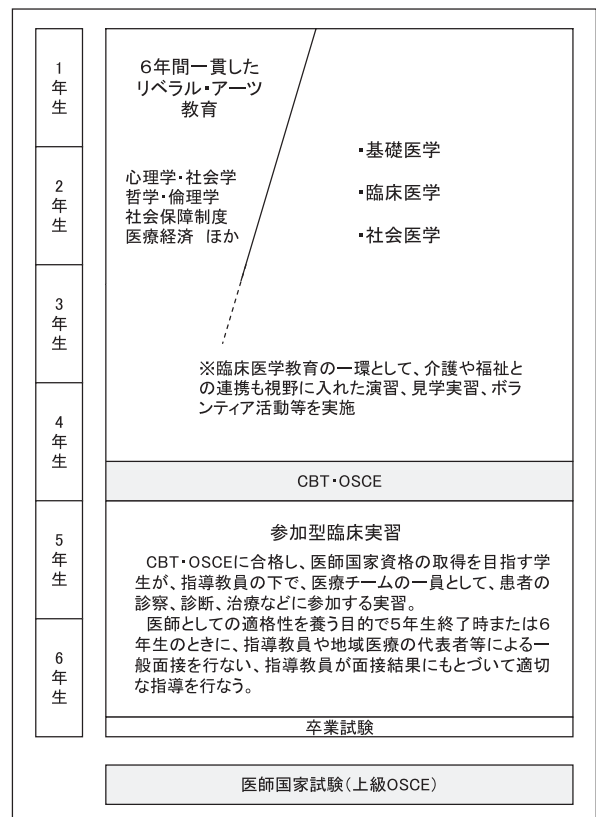


図1 医学部教育の改革案

臨床研修制度に関しては、当面の課題として表1に掲示した基本的方向性を提示している。いわゆる後期臨床研修については、専門医制度（現在検討途上段階）との関係を調整しつつ、あらためて提案するとしている。

研修システムについては、医師研修機構および臨床研修センターの設置を検討している。そのイメージは図2に掲示する。

表1 日本医師会 臨床研修制度の基本的方向性(当面の課題として)

- 基本的なプライマリ・ケア能力を獲得し、地域医療を担うことができる医師を養成するため、地域社会で充実した研修体制を整備する。
- 研修希望者数と全国の臨床研修医の募集定員数を概ね一致させる。都道府県の募集定員は人口や地理的条件など地域の実情を踏まえて設定する。
- 臨床研修医が単なる労働力として位置付けられることなく研修に専念できる環境を整備する。
- 臨床研修医の研修先における給与水準を一定の範囲内にする。

表2 奨学金貸付の状況（平成20～23年度）

区分		20年度	21年度	22年度	23年度	計
札幌医科大学	定員	10	15	15	15	-
	貸付実績	8	15	12	15	50
旭川医科大学	定員		7	17	17	-
	貸付実績		7	17	17	41
計	定員	10	22	32	32	-
	貸付実績	8	22	29	32	91(名)

4. 北海道における医師不足、偏在の現況と対策

医師数は国が2年ごとに調査しており、直近のデータは2008年のものとなるが、2011年も例年ペースの伸び率と考えられる。

道内の医師数は2008年1万1,830名で、この10年で1,311名増加した。全体としての医師数増加には、医育大学の定員増と地域枠入学者を対象とする医師奨学金貸付事業が大きな貢献をしている。その詳細を表2、表3に掲示する。偏在に対しても種々の事業が行われている。

医師確保対策の実施状況を表4に掲示する。涙ぐましい努力がなされているにもかかわらず、実効は遅々として上がっていないとも思われるが、今後も地道に続けていけば改善が得られるものと信じている。

道の二次医療圏別の医師数の実態調査によると、表5で分かるように都市部集中の傾向が見られる。札幌一点集中は次第に緩和されるであろうが、地方の都市部への偏在は今後も続くと予想される。しかし、研修医など若い医師の地域医療に対する考え方も変化を見せ始めている。札幌大における医学生サークル「フラット」などの今後の発展に期待したい。

また、研修医の考え方にも変化が見られる。2011年7月の厚生労働省の調査では、臨床研修制度を終えた医師の65.4%が医師不足地域での勤務について条件が合えば従事したいと答え、25.5%が条件にかかわらず希望しないと答えている。条件とは、「自分と交代できる医師がいる」が55.7%、「一定の期間に限定されている」が53.8%、「給与がよい」が47%で

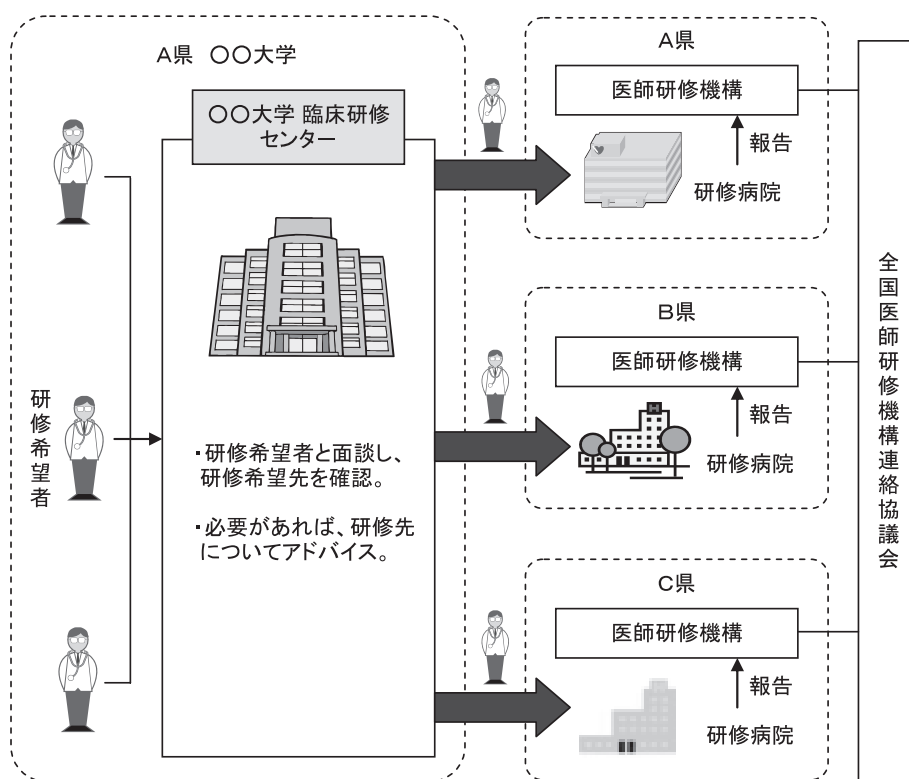


図2 「臨床研修センター」と「医師研修機構」のイメージ

表3 地域卒業医師の人事配置等の考え方について

区分	地域卒業医師		自治医科大学卒業医師
	臨床医指向	公衆衛生等指向	
入局	・制限しない	・制限しない	・制限しない
義務年限中の従事診療科	・専門医を指向する場合であっても、地域から医師派遣の要請が多い診療科を選択するよう働きかけを行う	・制限しない	・地域から医師派遣の要請が多い内科および小児科を選択するよう働きかけを行う
1年目 ～ 2年目	初臨床研修	・道内の臨床研修病院の中から選択	・道内の臨床研修病院（民間を除く）の中から選択
3年目	へき地医療研修	・知事が指定する道内の公的医療機関のうち、常勤医師が複数体制の医療機関に加え、札幌市、旭川市を除く市町村に所在する臨床研修病院またはこれに準ずる病院に配置	・地域センター病院のうち自治体病院に配置
4年目 ～ 5年目	前期へき地医療活動	・知事が指定する道内の公的医療機関のうち、常勤医師が複数体制の医療機関に配置	・へき地等に所在する医療機関（民間を除く）に配置
6年目 ～ 7年目	卒後再研修	・道内の臨床研修病院等の中から選択	・道内の臨床研修病院（民間を除く）および自治医科大学附属病院等の中から選択
8年目 ～ 9年目	後期へき地医療活動	・知事が指定する道内の公的医療機関に配置	・へき地等に所在する医療機関（民間を除く）に配置
配置先の決定方法	大学医局入局者	・道が、当該医師および大学医局と協議し、知事が指定する道内の公的医療機関等と調整の上、決定	・道による人事配置
(1年目 ～ 9年目)	その他	・道が、当該医師と協議し、知事が指定する道内の公的医療機関等と調整の上、決定	

表4 医師確保対策の実施状況

1 常勤医師の確保

区分	概要	開始年度	21年度実績	22年度実績
①自治医科大学卒業医師	自治医科大学卒業後、道職員として採用し、一定期間地域の医療機関に派遣（研修期間の医師を除く）	S53	派遣職員数 10名 利尻4、羽幌2、稚内、留萌、中標津、北見	派遣職員数 10名 利尻3、羽幌2、留萌、中標津、北見、紋別、厚岸
②北海道地域医療振興財団	財団に求人登録した医療機関に対して、財団のドクターバンクから医師を紹介・斡旋	S61	紹介成立数 14名 (登録医師120名) 陸別、名寄、本別、白老、むかわ等	紹介成立数 15名 (登録医師111名) 遠別、豊浦、陸別、せたな、浦河、洞爺、北見、森 等
(再掲) 女性医師バンク	育児等のため一時的に現場を離れている女性医師の復職などの支援を目的とした「北海道女性医師バンク」からの医療機関の紹介・斡旋	H17	(登録医師17名)	紹介成立数 1名 (登録医師18名) 札幌
③札幌医科大学地域医療支援センター	医師不足が深刻な市町村立病院などの医師の確保に向けて、札幌医科大学所属教員を派遣（派遣期間は4年を限度）	H13	派遣医師数 15名 (定員枠15名) 根室5、日高、斜里、黒松内、豊浦、中頓別、厚岸、別海、足寄、池田、松前	派遣医師数 11名 (定員枠15名) 根室4、幌加内、松前、八雲、長万部、今金、足寄、池田
④旭川医科大学地域医療支援センター	札幌医科大学と同様に旭川医科大学に地域医療支援センターを設置し、医師を地域の医療機関に派遣	H21	派遣医師数 3名 (定員枠6名) 留萌、深川、滝川	派遣医師数 5名 (定員枠6名) 留萌2、深川、滝川、根室
⑤道職員医師の採用・派遣	道内外の医師を道職員として採用し、地域の医療機関に派遣	H19	派遣職員数 1名 根室	-
⑥医師研修費貸付金事業	道内医育大学の大学院生および臨床研修病院に在籍する臨床研修医を対象に、研修費を貸付した医師を地域の医療機関に派遣	H20	派遣医師数 2名 (H20貸付人数4名) 松前、中標津	派遣医師数 1名 (H21貸付人数3名) 中標津
⑦医師版移住促進事業	北海道での勤務を考えている道外の医師を対象に地域医療の現場視察や体験勤務を実施	H19	地域勤務 8名 (地域医療視察体験者数11名) 足寄、大樹、摩周、江別、三笠、弟子屈、根室、札幌	地域勤務 4名 (地域医療視察体験者数8名) 釧路2、岩内、羽幌
⑧東京事務所における医師確保	東京事務所において地域医療振興協会や全国自治体病院協議会など関係団体と連携し医師を確保	H20	確保医師数 1名 別海	確保医師数 5名 別海4、羅臼
⑨総合医養成支援事業	卒後臨床研修終了後の医師を対象に、総合医を養成するための後期研修を行う病院に対する補助を実施	H17	地域勤務 4名 (H20研修11名) 礼文、上川、松前、足寄	地域勤務 4名 (H21研修10名) 更別、寿都、上川、黒松内
計			58名	55名

2 短期勤務医師の確保

区 分	概 要	開始年度	21年度実績	22年度実績
①北海道地域医療振興財団				
ドクターバンク登録医師の派遣	ドクターバンクから休暇取得時等の代替医師や診療協力のため、医師を地域の医療機関に派遣	S61	登録医師 172名 派遣日数 延べ 2,230日	登録医師 190名 派遣日数 延べ 2,733日
(再掲) 熟練ドクターバンク	定年退職した医師等による「熟練ドクターバンク」から、医師を地域の医療機関に派遣	H16	登録医師 57名 派遣日数 延べ 814日	登録医師 62名 派遣日数 延べ 968日
②緊急臨時的医師派遣体制整備事業	都市部の医療機関から医師不足が深刻な地域の医療機関に対して、北海道医師会、北海道病院協会などの協力を得て、緊急に医師を派遣する体制を整備	H20	派遣先 42医療機関 延べ 2,342日 倶知安、広尾、大樹、余市、小樽、岩内、栗山、三笠、羅臼、留萌、木古内、乙部、白老、中標津、天売、鹿追、本別等	派遣先 44医療機関 延べ 3,260日 倶知安、岩内、夕張、大樹、泊、八雲、広尾、むかわ、豊浦、伊達、平取、新ひだか、栗山、新冠、余市 等

3 その他の医師確保対策

区 分	概 要	開始年度	21年度実績	22年度実績
①医師招へい事業	北海道の地域医療に関心のある道内外の医学生等を対象に、道内臨床研修病院等の情報を広く周知するほか、臨床研修病院合同説明会や地域医療体験実習などによる招へい活動を実施	H19	臨床研修病院合同説明会参加学生数 ・札幌 146名 ・東京 44名 計 190名 地域医療体験実習参加学生数 16名	臨床研修病院合同説明会参加学生数 ・札幌 190名 ・東京 27名 計 217名 地域医療体験実習参加学生数 7名
②指導医養成事業	道内臨床研修病院等の医師を対象に、プライマリケアの指導方法等に関する講習会を実施	H19	H22. 1. 23～24 ・受講者 28名 札幌市で開催 (共催：道医師会)	H23. 2. 5～6 ・受講者 28名 札幌市で開催 (共催：道医師会)
③医育大学の定員増	医師の絶対数の増加に向けて、道内三医育大学の定員増を図る	H20	札幌大 110名 (+5) 北 大 105名 (+5) 旭医大 112名 (+12) 計 327名 (+22)	札幌大 110名 北 大 112名 (+7) 旭医大 122名 (+10) 計 344名 (+17)
④医師奨学金貸付事業	道内医育大学の地域枠入学者を対象に、医師免許取得後、一定期間、地域の医療機関に勤務することを条件とする奨学金を貸付	H20	貸付人数 札幌大 15名 旭医大 7名 計 22名	貸付人数 札幌大 12名 旭医大 17名 計 29名
⑤総合内科医養成研修センター運営支援事業	地域の中核的な病院において、幅広い診療を行うことができる総合内科医師を養成する研修センターを設置し、運営費を支援	H22 (新規)	-	23病院指定
⑥地域医療指導医派遣システム推進事業	地域の中核的な病院に安定的に指導医を派遣するため、道内医育大学と連携の上、指導医派遣のためのシステムを構築	H22 (新規)	-	8名研修
⑦女性医師等勤務環境整備事業	育児等で離職した女性医師等の復職のための相談・研修事業等に補助	H22 (新規)	-	2医育大学 1医療機関

あった。地方自治体の財政状態が苦しい現状では給与額も限られてこようが、自治体も条件改善に努力してみたいかかと考える。

5. 北海道地域医療振興財団の現況

北海道地域医療振興財団は、大学医局が地域への医師派遣配置の実権を有していた時点で、向後の地域医療や高齢医師の活用などを考慮して、当時の堂垣内知事と山崎北海道医師会長の発案により創設された。

過日、道内有力日刊紙が医師偏在の記事を掲載した。内容は妥当であり、道民にもよく理解できたと考えるが、ただ一点問題のある記述が見られた。地域医療への道の対策として、北海道地域医療振興財団と緊急臨時的医師派遣体制整備事業を通して地域への短期間の医師派遣を取り上げているが、大きな成果は上がっていないとしている。両事業とも地域医療機関は大きな成果を認めてくれていると確信している。

ここに北海道地域医療振興財団の実績を少し細か

表5 2次医療圏ごとの10万人当たり医師数(人)

医療圏名(主な自治体)	1998年	2008年	増減率(%)
南渡島(函館市)	181.2	213.1	17.6
南檜山(江差町)	101.9	111.5	9.4
北渡島・檜山(八雲町)	117.5	112.2	▲4.5
札幌	224.7	258.6	15.0
後志(小樽市)	179.1	176.1	▲1.6
南空知(岩見沢市)	152.1	162.1	6.5
中空知(砂川市、滝川市)	171.4	202.3	18.0
北空知(深川市)	162.6	187.0	15.0
西胆振(室蘭市)	167.7	197.5	17.7
東胆振(苫小牧市)	128.6	158.3	23.0
日高	101.8	103.0	1.1
上川中部(旭川市)	261.4	304.7	16.5
上川北部(名寄市)	149.6	158.2	5.7
富良野	108.7	127.7	17.4
留萌	126.1	125.2	▲0.7
宗谷(稚内市)	103.7	91.8	▲11.4
北網(北見市)	129.8	153.5	18.2
遠軽・紋別	142.2	122.7	▲13.7
十勝(帯広市)	125.6	163.1	29.8
釧路	146.0	156.5	7.1
根室	67.4	88.8	31.7
全道平均	184.9	214.4	15.9

(▲は減)

2 短期医師紹介

年度	派遣区分	登録医師数	回数	実人員	延日数	紹介先医療機関						
						道立病院	市町村病院	公的	道立診療	町村診療	医法	計
18	全 体	106	431	35	1,626		29			10	1	40
	うち熟練	39	162	15	580		22			8	1	31
19	全 体	128	495	35	1,716		28	1		12	1	42
	うち熟練	45	224	14	692		26			11	1	38
20	全 体	153	486	36	1,679	1	30			11		42
	うち熟練	54	197	14	629	1	27			10		38
21	全 体	172	624	41	2,230		28	1	3	11		42
	うち熟練	57	238	11	814		22		1	10		33
22	全 体	190	773	45	2,733	1	27	1	4	13		46
	うち熟練	62	285	16	968	1	23		3	11		38

3 三大学短期紹介(学会・研修会参加に伴う大学からの派遣)

年度	回数	実人員	延日数	医療機関数
18	5	5	12	5
19	7	8	27	7
20	4	6	17	4
21	3	3	10	3
22	2	2	8	2

くなるが揭示する(表6)。同財団では5つの事業を行っている。常勤医師紹介による就職成立数は少ないが、最大の事業である短期医師紹介は順調に伸びており、紹介回数と延日数は21年度より急伸びしている。若い医師の3割を占めるに至った女性医師において、紹介事業は低調が続いている。女性特有の事

表6 ドクターバンク事業実績(平成18~22年度)

1 常勤医師紹介

年度	求人数				求職数			就職数※
	医療機関数	線越	当該年度	合計	線越	当該年度	合計	
18	206	357	198	555	125	55	180	24
19	200	438	164	602	129	42	171	24
20	206	472	123	595	129	32	161	18
21	214	478	72	550	131	36	167	14
22	232	475	100	575	149	22	171	14

※「就職数」の医療機関別内訳等

年度	国立病院・診療所	道立診療所	市町村病院	市町村診療所	公的病院	医療法人	合計
18			9 44.4	3 53.3	3 45	9 50.2	24(人) 47.4(平均年齢)
19		1 48	16 45.8	3 57	2 44.5	2 53	24(人) 47.8(平均年齢)
20			12 52.3	2 38.5	2 61	2 51.5	18(人) 51.6(平均年齢)
21			8 57.3	4 50.7	1 56	1 77	14(人) 56.7(平均年齢)
22	1 61		5 62.2	4 59.2	1 39	3 54.6	14(人) 58(平均年齢)
計	1	1	50	16	9	17	94(人)

4 女性医師バンク紹介

年度	登録医師	就職数	内 容
18	16	0	
19	16	3	常勤1(旭川)非常勤2(札幌)
20	15	0	
21	17	0	
22	18	1	常勤1(札幌)

情が影響しているのか分析が行われていないので、今後検討すべき点と考えている。なお、派遣先として登録いただき、財団の事業に理解をいただいている医療機関に対してここにご芳名を掲示させていただき(表7)、今後とも変わらぬご協力とご理解をお願いし日頃の感謝の意を表します。

表7 短期医師紹介先医療機関（平成22年度）

道央	歌志内市立病院 由仁町国保病院 京極町国保病院 豊浦町国保病院 新ひだか町三石国保病院 日高町門別国保病院 平取町国保病院 積丹町診療所 島牧村診療所 えりも町国保診療所 奈井江町国保病院 新ひだか町静内病院 日高町診療所 むかわ町穂別診療所 登別年金病院 15	道北	遠別町国保病院 手塩町国保病院 浜頓別町国保病院 枝幸町国保病院 枝幸町歌登国保病院 和寒町国保病院 新冠町国保診療所 剣淵町国保診療所 音威子府村診療所 幌延町国保病院 礼文町診療所 豊富町国保病院 猿払村国保病院 占冠村診療所 道立羽幌病院 道立天売診療所 道立焼尻診療所 道立庶野診療所 道立阿寒湖畔診療所 19	十勝	士幌町国保病院 大樹町立国保病院 池田町国保病院 浦幌町国保診療所 陸別町診療所 5
	道南		長万部町立病院 八雲町熊石国保病院 せたな町国保病院 奥尻町国保病院 4	釧根	厚岸国保病院 1
				オホーツク	清里町国保診療所 興部町国保病院 2
				合計	46（市町村病院27、市町村診療所13、道立病院1、道立診療所4、公的病院1）

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

- 原稿の締切
毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。
できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。
- 原稿の体裁と字数制限
 - 原則として横書きといたします。
 - 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
 - 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。
 - 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。
医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。
 - 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。
- 原稿の訂正、返却
次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。
 - 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容
 - 匿名の投稿
 - 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）
ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない
 - その他掲載に支障がある内容
- ホームページへの掲載
特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233
E-mail : ihou@m.douji.jp